

書評

製作・監修：ニューヨーク大学医学センターリハビリテーション研究所
日本語翻訳：岩崎・グッドマン・まさみ

愛したい 愛されたい—障害者のセックス

高松 鶴吉（西南女学院大学）

「ポルノみたいなビデオだけど」といちご会代表の彼女は私にその存在を語った。

「真面目に障害者の性に向かい合う人たち、リハビリテーション関係の先生方がみて下さるとうれしいのですが」とも言った。

私は大学図書館の視聴室で観た。ミッション女子大だから、何も知らない人が突然入ってきて画面をみると、私の人格を問うウワサが流れるかも知れない。私は慎重に部屋の鍵を確かめた。

これは80年代、障害者の性を真剣に考えるアメリカのリハビリテーション医学のチームが、さまざまな障害を持つ人々の協力を得て作ったビデオである。出演した障害者たちは率直に自分の体験を語るだけでなく、全裸の男と女になって、彼らのベッドルームをカメラの前で紹介してくれるのである。それはさまざまな体位と工夫があって、いかにして自分の、そして相手の愛情を肉体的に確かめるのか。

ある対麻痺の青年は自分の下半身の萎縮と変形を恥じらい、ベッドの上でもパンツ（ズボンのこと）が脱げなかったと語った。彼らにとっての性はきわ

めて心理的な葛藤の先にある。

ヘルパーの人は「私の役割は彼らを裸にするだけです。彼らの愛に私は介入しません、できません。」という。その言葉どおりに、四肢麻痺の男女がイモムシのようにベッドの上に転がる。その男女が懸命の努力で絡み合い愛し合う。

その姿は奇妙でもあった。だがその姿を観るうちに私は厳粛になった。日常は娯楽的に扱われる私たち人間の性が、かくもその本質を示した場面はないと思った。社会的な障壁を超え、心理的な障壁を超え、しかもなお厳しい肉体的な障害のハードルを超えて、やっと喜びに到着する。その姿を観ると「性なき生は生ならず、性を抜いて QOL はない」と性への支援に真剣にならねばと私は思った。

諸先生方にも是非とも一見願いたいと思う。

（英語版原題：CHOICES—In Sexuality with Physical Disability／発売元：札幌いちご会—003 北海道札幌市白石区東札幌 2 条 5-2-5 漢太郎ビル 1 階、TEL 011-831-3790／1996 年 2 月発売／8,000 円）